



ぼらんていあ通信

11月号
通巻 No.444

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2018年11月20日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: <http://sagamiva.info/>

おめでとう！おめでとう！

「第二十八回市民福祉の集い」で社会福祉功労者として 加藤修さんと植野美代子さんを表彰される

去る九月二十日(日)に相模原市民会館ホールで「市民福祉の集い」が開催される予定であったが、残念ながら台風の影響で中止が決定された。そのため前日に式典の中止が決まった。そこで、電話などでお祝いの声をお二人にインタビューさせていただいた。

現在ハンディキャップ委員会委員長を務めている加藤修さんに、まずインタビューした。

*ボランティアを始めたきっかけは、十年前にボランティア養成基礎講座を受けた後HCCの運転を始めました。

*現役でお仕事されている時ですね。ご家族の反応はいかがでしたか？

空き時間を使ってボランティアするのならばいいのでは、という感じでした。

*活動中のエピソードを伺う。

ボランティアを始めた頃、お風をこ馳走になったことがあります。若かったからでは、今では思いません。

*これからについての思いは、ドライバーの高齢化が進み、新しい人の確保もなかなか厳しい状況ですが、無理の無い範囲で活動していただければよいのではハンディキャップ



加藤修さん

もなかなか厳しい状況ですが、無理の無い範囲で活動していただければよいのではハンディキャップ

ャブ活動に興味のある方ぜひ協会までご連絡ください！

続いて、広報委員として「ぼらんていあ通信」の編集・発送などで活躍されている植野さんに伺った。

*きっかけは何だったのですか？

ボランティア養成講座から点訳コースに入ったあと、仲間の先輩に声を掛けていただいて、少々不安はありましたがOKしてしまいました。今でも記事を書く度に後悔しています。

*ご家族の反応はどうですか？

ありがたいことですよ、おおびね協力してくれています。

*活動中のエピソードは、南区全域に取材に行きますが、道を間違えて困ったことも度々あります。

*これからどうなされますか？

動ける間は仲間の一言でありたいと思っています。



植野美代子さん

ご主人が訪問先まで車で送ってくださったり、息さんの奥さんが車で送ってくれ取材にも協力いただける本当にご家族の暖かい協力がぬくもりの源です。(山崎)



Twitter

ぼらんていあ通信版 ツイッターコーナー

気分転換

S.S.S

先日、山梨県忍野村の忍野八海観光に行きました。きっかけはTV番組で美しい池が紹介された事で、忍野八海を見たいとの気持ちで車を走らせました。

現地に着ると驚いたのは、観光バスツアーによる外国人観光客の多さで、その多くはアジア系の方です。

八海巡りコースは人が多く気を付けて歩かないと人とぶつかりそうな混みよかったです。

最近の外国人客は都市部から地方の観光地を訪れている人が多くなっているとの新聞などの報道を目で実感して、これが地方経済の活性化を大きく進めると期待しています。

美しい池を見て、東田寺の住職から天井画の説明などを聞き、美味しい料理を堪能した一日でした。



毎月、ほらんていあ通信発送作業のお手伝いをしていただいている「さがみはら若者サポートステーション」の方々に、ほかほかふれあいフェスタのボランティアにも参加いただきました。



「できる自分」の発見

さがみはら若者サポートステーション

相談員 藤澤一飛

さがみはら若者サポートステーション（略称サポートステ）は、働くことや自立に悩みを抱える十五歳～三十九歳までの若者に、個別相談をはじめとする様々な支援を行なっている就労支援機関です。サポートで活動している若者は、自分に自信が持てなかったり、人とコミュニケーションをとることを苦手に感じていたり、学校や会社に馴染めるかどうかわからない不安を抱えている人も少なからずいます。

このためサポートでは、個別相談や、知識やスキルを習得するセミナーだけでなく、「きもち」「失敗しても大丈夫だった」といった、感覚的・経験的な学びの機会を大切にしています。

「ほらんていあ通信」の発送のお手伝いもその一環で、ボランティア活動を通じて地域の方々と出会い、関わらせていただいています。そうした中、ボランティア協会の方々から「ほかほかふれあいフェスタのスタンプリーマン受付のボランティアをやってみませんか」という特別なお話をいただきました。地域の皆さんと関われる絶好の機会です。「初対面の人に声をかけられるのだろうか?」といった不安を持ちながらも、今回チャレンジしてくれたのは、五名の若者でした。

当日はスタンプリーマンの受付「ミニ」の乗車受付に分かれてお手伝いをしました。若者たちの感想は次の通りです。

「ミニ」の受付で、ちょっとの子もたてに自分から声をかけようよがうれしかった」

「ミニ」を黙って見てくる子がいました。乗りたい? と声をかけると、黙ってうなずいてくれました。その子が楽しそうにミニに乗っている姿を見て、嬉しかったです」

「子どもたちが、次から次へとやってくるので、話すことが苦手だ、と思う間もなく、子どもたちに声をかけている自分に気づきました」

「スタンプリーマンの受付は、できるかどうか、わからなかったけれど、やってみると案外できていました」

「子どもたちにスタンプリーマンの景品を渡すのにこころして、ありがとうございます、と言ってくれたことが嬉しかった」

「子どもだけでなく、保護者の方にも景品の説明をすることができました」

ボランティア活動をして、自分のとった行動が「ありがとう」というリアクションにつながったことや、若者たちにとって大きな意味があったのではないかと考えております。

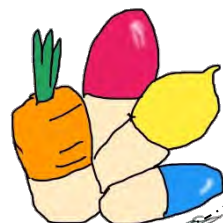
ボランティアを終えての帰り道で話をきいてみると「参加することができて良かった」「自分が思っているよりも人と話せた。少し自信が持てた」・・・こうした言葉が返ってきました。その時の若者たちの表情は、フェスタ当日の秋空のよう、実に晴れやかなものでした。



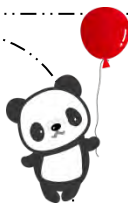
12月の記念日は?

小倉義男

12月13日は、1913年のこの日、鈴木梅太郎が、米ぬかから抽出した脚気を予防する成分に「オリザニン」と命名したことを東京化学会で発表したことを記念して、ビタミンの日だそうです。オリザニンは後に、この1年後に発見されたビタミンB1と同じ物質であることが判明し、『ビタミンの日』制定委員会が2000年9月に制定。ビタミンは、私たちの身体に必要なですね。(^^)



小倉画



おめでとう!!

第四十九回相模原市社会福祉大会開催
協会の立石雅子さん、小川進さん受賞

市社会福祉大会「市民みんなの心」の『が十月二十七日(土)午後一時三十分からあじさい会館ホールで開催された。

プログラム第一部の相模原ニューフォ・チューバーアンサンブルのお楽しみコンサートの後、第二部では特別表彰の団体、一般表彰125名、19団体に市社会福祉協議会会長戸塚英明氏から表彰状が贈られた。ボランティア協会としては、事務局運営に尽力されている立石雅子さん、高

ボランティア活動グループ訪問記

ボヤマシマ



ボランティア活動を始めたい人へ
セミナーとサロンが同時開催！
新しく試みてみよう



去る十月二十四日(水)十時から大野台のシルバータウン相模原特別養護老人ホーム内かのこホールでボランティアセミナーと大野中地区社協事業の「ふらっと立ち寄りサロン」が同時開催されるというので取材させてもらった。近年、ボランティアセンターでは地区ごとのセミナー開催がすすめてきたが、サロンと同時開催となるのは初めてなのだった。

広いホールの左側でセミナーが、右側でサロンが同じ空間で開かれた。

『ボランティア活動のすすめ』と題する色刷りの資料をもとに、スクリーンに映し出された内容を、南ボランティアセンターの職員の方が丁寧に分かるやすく説明してくれた。

まずボランティア活動とは、強制されたり義務から行うものではなく、自ら進んで、支え合おうという対等な関係のなかで、出会いや、充実感、達成感を感じるものであること。活動の場としては、登録して個人で



セミナー風景



「ふらっと立ち寄りサロン」
ゆったりくつろいで



サロンのスタッフのみなさんに
こやかに、楽しく！

困気を醸し出している「ふらっと立ち寄りのサロン」に参加。談笑しながらコーヒーなどを飲み、くつろいだ後、またセミナー再開。ボランティア活動は、無償が原則だが、ふれあいサービスや給食サービスの配食協力など有償活動もあることが紹介された。

高齢者支援では、通院付き添いは、院内は介護保険のヘルパーさんが適用されないためボランティアさんが大いに求められている。共に楽しむ趣味の相手(将棋、囲碁、麻雀など)もある。障がい者への外出援助や、障がい児の学校への送迎・付き添いなどのボランティアも必要とされている。

最後に、興味や関心のある身近なボランティアから始めるようにして、家族の理解を得て、頑張り過ぎず自分の生活とのバランスをうまくとるながら、約束やルールを守り、相手の立場を尊重してボランティア活動に携わってほしいとの話でセミナーは締めくくられた。

サロンのボランティアさんたちがとても楽しそうにお茶のサービスや話し相手をしている様子が印象に残った。

次回のボランティアセミナーは新磯公民館で十一月十三日(木)十時から開催されるので、興味のある方はぜひ参加してほしい。(植野・山崎)



年齢者及び障がい者の外出援助に尽力されている小川進さんが受賞。お一人にお話を伺った。立石さん「何かしたいと思っていた時に事務局員に誘われてタイミン



グがよかった。ハンディキャブの運転ボランティアさんを探すが大変ですわ。見つかってすぐのした気分です。帰りたいです。出かける時は気が張っていますから、家族は察して協力してくれます。会員同士でやっている手芸サークルの作品はぜひさらまつりのバザーに提供しています」



基礎講座受講後、外出支援を始めました。現在HCCの会の会に所属。話し好きなので利用者さんといろいろおしゃべりします。安心かわるのでしょうか。指されることが多いです。家内は拡大写本のボランティアをやっていたので理解があります」

健康に気をつけられてボランティアに勤しんでくださいー！



(勝部・山崎)

東林ふくしまつりに参加して

町田 紘一

相模原ボランティア協会の資金集めの一手段として、毎年桜まつりのバザー、模擬店、ほかほかふれあいフェスタのコーヒー喫茶室（ほかふれに協力している方のための休憩が主目的）、東林ふくしまつりの模擬店等に参加。多くの皆様からご協力を頂き運営資金の一部に充当できることを感謝申し上げます。

今年度の桜まつりのバザーは皆様からの貴重な品物のご提供による売り上げと、組紐、玉こんにゃく、のり巻、だんご販売の模擬店で予定の品物を完売。十月二十日のほかふれ喫茶室では昨年同様の売り上げを、十月二十七日の東林ふくしまつりでも予定していた販売品を完売できました。

先日の東林ふくしまつりは、雨の予報もあり、お団子、のり巻の仕入れ数を少し減らし当日を迎えたのですが、早朝はかなりの雨。雨の場合は出店をしないと運営事務局に申告していたのですが、仕入れ先にキャンセルを申し出たところ、昨日の確認でキャンセルは不可。何とか頑張りうと連絡しあい準備に入りました。テント張の段階から青空が現れ、好天に恵まれるふくしまつりとなりました。

前日、町田が勤めている作業所から軽トラをお借りし（ガソリン代も作業所の提供）、緑区の鳥屋にある㈱イノウエ様で組み紐体験機をお借りしてきました。組紐機の借用は五回目です。

十時販売開始の合図で篠島さん、寺田啓子さん、田中孝子さん、石関さんの気持ちの良い呼び込みで、特に、シャンソンやコーラスで鍛えた篠島さんの良く透る声での呼び込みは言葉も面白く大爆笑。両隣の売り子さんも真似てはみ

たものの到底本家には及ばずでした。お陰様で、今年は土曜日になった為か、子どもの出足が少ない中順調な売り上げで二時半には完売しました。他店では閉店時間の三時ギリギリでの完売や、売残りの模擬店も一部ありました。組紐は杉本さんと町田が担当。売上は客待ちの状態が時々あったが、昨年体験した人も居り、好評で、五十名ほどの利用がありました。ハンディキャブ号の体験はスタンプリーに組み込まれており、例年十号車を提供、今年も佐々木さん、児玉さんに運転者募集のピラ配りを含め活躍して頂きました。



ボラ協の資金集めに模擬店などへの参加は威張れる状態ではありませんが、寄付金を含め、ボランティア協会の存在意義の周知と協力の輪を拡げるためにも、イベントへの参加を増やして行けたらと思います。皆様のご協力とご理解をお願いします。



お詫び

今月の『ほっこりなぼらんていあ』は都合によりお休みします。

理事会報告

十一月七日(水)十三時半から(理事七名出席)

一. 報告事項

◆ 広報

- ・わくわく次号の冬号は一月二十六日発行予定。わくわくに関するアンケート用紙を添付する。
- ◆ ハンディキャブ委員会
- ・先月に引き続き運転ボラ定年制導入の審議を行い、理事会に導入の申請を行うこととした。

- ◆ 総合企画委員会
- ・HC委員会提案のポイント制導入の可否について議論した。
- ◆ 事務局委員会
- ・ぼら通十月号に寄付申込の振込用紙を同封。
- ◆ 講座検討委員会
- ・春講座(三月十九日開催予定)の内容について、終活講座の講師予定者と協議を行った。
- ◆ ほかふれ幹事会
- ・ほかふれ当日のまとめと十二月八日(サンデック相模大野で開催予定)の準備について、次回(十一月十五日)検討する。

二. 審議事項

- ・HC運転ボラの定年制導入を決定した。
- ・二十九年四月より実施予定。
- ・定款変更認証申請(理事、役員任期明確化)について、市指導に基づく修正内容を承認した。
- 三. その他
- ・各委員会と事務部門の業務分担について再確認を行った。
- ・黄色いシートキャンペーン(十二月十一日)の参加者三名を決定した

次回理事会 十二月五日(水)

ボランティア協会 12月の予定

日	時間	内容
3(月)	14時	傾聴委員会
5(水)	13時半	定例理事会
10(月)	16時	総合企画委員会
11(火)		黄色いレシート キャンペーン
15(土)	10時 13時	HC委員会 事務局委員会
17(月)	13時	ぼら通印刷
18(火)	13時	ぼら通発送

事務局年末年始の休み
12月29日(土)~1月3日(木)

イベント情報
障がい平等研修DEF(市民向け)開催!
みんなが暮らしたくなる相模原に
していくために今、できる事
日時:十二月二日(日)
十三時十五分開場~十六時半(終了)
場所:ポーノ相模大野サウスモール
三階ユニコムプラザ第一会議室
内容:障がい平等研修は、世界各国で
行われている研修で、障がい当事者が
ファシリテーターとなり、地域の中に
ある障がいや困難な事に対して市民に
何が出来るかをグループワークで解決
していく研修です。日本でもここ数年
で浸透してきており、行政が開催する
ケースも増えてきています。
定員:300名(先着順)
問合せ先: 安西佑太
電話 080・1271・1998
Eメール
chimpam55@gmail.com

**バオバブ クリスマス
ロビーコンサート**
日時:十二月十九日(水)
正午~午後一時
場所:あじさい会館一階ロビー
内容:
ほっとさーくる相模原(ハンドベル演奏)
第2けやき音楽隊(合唱)
Noz(お客さんと一緒に音楽を楽しもう)
定員:500名、申込不要、直接会場へ
問合せ先
ハンドメイドショップ バオバブ
あじさい会館一階
電話 042・757・6772
視覚障がい者の理解と誘導入門講座
日時:平成三十一年一月二十七日(日)
午後一時半~四時半
場所:相模原市民ギャラリー会議室
(JR相模原駅セシオ相模原四階)
対象:関心のある方などでも
内容:
視覚障がい者への接し方と誘導の基本
費用:二〇〇円(保険及び資料代)
申込方法:電話、FAX又はメール
氏名と連絡先をおしらせ下さい
申込期限:先着二〇名になり次第締切の
申込先:
shiga-k223psn@docomo.ne.jp
電話:080・5413・6909
FAX:042・749・7830
(工藤・問合せ可)
主催:相模原誘導グループ ささの会
(肥田)

「感動製造幼稚園」

~毎日が感動と発見、笑顔があふれる幼稚園~
私たちは子ども達の未来を創っています。相模ひ
まわり幼稚園は豊かな感性とたくましい心身を育む、
地域の子育てをサポートする幼児教育センターです。
"子どもは大人の背中を見て育つ"。そうした
考えのもと、職員の間力への向上に力を尽くしてい
る。規律のある行動、笑顔での対応は、園児にとっ
ていつでも良い見本に!「梅干し作り」「祖父母交
流会」「卒園児キャンプ」その他工夫を凝らしたイ
ベントが多いのも、それだけ熱心な先生が多い証拠。
「人生の一番大事な『今』をひまわりで一緒に育
みましよう」。私どもは、おかげ様をもちまして相
模原市で創立し、今年で53年目を迎えます。私ど
もは、至宝の子どもたちが社会人になった時、お互いを尊重し、社会に「公」
に貢献出来る自立した人間に育つことを願っています。「公」とは、我以
外の事です。そのために態度教育(挨拶、返事、立腰、履物を揃える、食
育)を教育の柱とし、遊びをはじめ、子どもたちの興味にあった身近な体
験を大事にしています。詰め込み教育ではなく、生きる力を獲得するた
めの環境を整え、将来見事に咲くであろう大輪のひまわりの花を楽しみにし
て、種をまき、水を与え、大切な根っこを育てています。加えて、生涯絶
対必要な笑顔、優しさ、挑戦する勇気を私ども相模ひまわり幼稚園の教育
理念として伝えております。
理事長・園長からは、『先生とは、子どもの未来を創る仕事。だから、
世の中で一番尊い職業なのですよ』と日々言われております。その言葉を
心に刻み一人ひとりが期待に胸を膨らませながら共に成長しております。



川井 起彦さん

相模原市で活躍する会社紹介



相模ひまわり幼稚園

学校法人 至誠学園
相模ひまわり幼稚園
主事 川井 起彦さん(35)
(公社)相模原青年会議所
東京五輪準備委員会 委員長
住所:〒252-0333
相模原市南区東大沼 2-7-6
電話 042-744-0220
E-mail: Info@s-himawari.jp



事業内容

- ・ 幼児教育
- ・ 子育て支援
- ・ 預かり保育 (7:30~19:00)
- ・ 2歳児教室 (週1~週5コース選択)
- ・ 親子教室 (月1回)
- ・ 学童保育 (小1~小5)
- ・ 赤ちゃん教室

市社協事業紹介 (その8)

ボランティア協会の皆さま、ご協力には、相模原市では多くのボランティアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまがそれぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。市と市社協も、多くの方々の協力を得て、「みんなで支え合い、地域の力が育ち、人にもよいまちがびほびほ」を共通のスローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。

今号では多くのボランティアや福祉施設、団体等の協力のもとに進められている『福祉教育』事業について触れたいと思います。

市社協の福祉教育の取り組みは、昭和五十九年に始まりました。「わがSLOWLY」と言われる福祉を「わがらやす」「変えて」「多くの市民に関心を持ってもらい、参加してもらえよう」と福祉啓発教育として取り組みを始めたものです。

まず第一弾として「福祉啓発教育研究会」が開かれ、学校・地域での取り組みとして「福祉活動」の「下集」がまとめられました。第二弾は「福祉啓発教育モデル地区」として大野北、上溝地区が指定され、地区広報紙の発行や福祉講演会、講座、映画会などが始まりました。こうした活動から世代間交流や障がいのある方との交流会などが始まり、「共に生かす」ことの理解を進める機運が生じています。こうした動きを支援するため、の資料として、秋葉山(あきはやま)先生からの福祉マンガ「みんないっしょ」や、障がいのある方の生活環境を考える福祉「リポート」も一つの街が「の」の作成が第三弾としての取り組みとなっています。

ます。そして第4弾として、夏休み中の六日間にわたる福祉体験講座「ヤングボランティアスクール」(市内在住の高校生対象)が実施されています。

地区社協を中心とする福祉啓発の取り組みはこの時期に基盤が形づくられ、現在まで様々な形で継承されています。地区ごとに開催される「福祉まつり」などは、参加体験型のプログラムが用意され、毎年多世代の多くの方々福祉に触れる機会となっています。

市社協の現在の福祉教育の取り組みは小中学生、高校生等の学生を対象としたものと、ボランティアセミナーなど一般市民の参加を目的としたものとに分かれています。

小中学生に向けては「みんないっしょ体験講座」を開催していますが、これは小中学校の授業の一環として開催されるものが多く、毎年八〇校前後の学校から依頼を受けています。障がいのある方を講師として迎え、様々な体験等をお話いただきながら「共に生かす」ことの理解を進めていくことをプログラムの中心に据え、支えるボランティアグループの方々の指導で、実際の接し方などを体験するものです。昨年は延べ九〇〇〇名を超える児童、生徒が受講しています。

また、中高生に向けては「ボランティアチャレンジスクール」を開催しています。夏休み中に福祉活動をはじめとした様々な市民活動を経験し、将来の社会参加に生かしてもらうことを目的としています。相模ボランティア(市民活動サポートセ

ンター・国際交流ラウンジ・市社協ボランティアセンターの連絡組織)と青少年学習センターの共催事業のため、地域活動や環境、国際交流コースなども選択出来る大きな特徴です。今年も五十一団体の協力により、六十八名の中高生が様々な市民活動を体験しました。

また、こうした場面で講師として活動される障がいのある方々に向けての「講師研修会」や、学校で人権福祉教育を担当する教職員を対象とした会議でのプログラム説明などにも取り組んでいます。

一般向けには「ボランティアセミナー」を開催しています。初心者向けとして、活動の基礎と活動例、車いす操作の基礎の体験などを通して、「いるかバンク」への登録をお勧めしています。三区ボラセンがそれぞれ開催しており、昨年は二十三回、延べ二百四十二名が参加しました。また、地区社協やボランティアグループからの依頼には個別対応しており、オーダーに応じて、職員の得意分野を生かしたプログラムや情報提供を行っています。皆様の地区、団体等でもご要望をお寄せいただければ、できる限り対応いたしますので是非一度ご相談ください。

これから様々な活動を通して参加型福祉を広げていきたいと思っております。皆様のご協力をよろしく願います。

市社協 田所

会員のひろば

様々なボランティア活動をなされてる会員の皆さま、その活動の紹介や経験したことなどを語っていただくコーナーです。

赤秋の会(配食サービス)

が表彰されました

勝部 幸二

第四十九回 相模原市社会福祉大会(市民みんないひとの日)が平成三十年十月二十七日(土)あじさい会館ホールで開催され、表彰の部で赤秋の会(配食サービス)が特別表彰を受けました。

配食サービス(赤秋の会)は平成十四年より命名(昭和六十二年二月)よりたんぼほクラブの人達が調理したお弁当を高齢者等へ配達及び見守り訪問し、代金を頂戴し健康状態などを社協担当者へ報告。

配食サービスはスタートより平成十四年までは毎週火曜日の昼食の配達活動でした。昭和六十三年当初は会員九名で二十五食を配達していました。

平成五年頃は徐々に配達先も増し五十食に

達し、会員も十三名

(男性の名)になりました。

平成十年頃には

配食サービスは六十

十食となり会員も



十七名(男性の名)になっていきます。私は平成十二年二月二十一日に入会し、当日は助手として中沢方面三軒へ赴いています。平成十三年十月のもみじまつりに始めて参加し(男性十名・女性十名)餅つきをして、大好評を受けました。もみじまつりでの餅つきは最初でした。

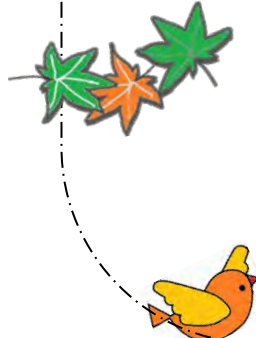
平成十四年から十五年にかけて、一週間四食の配食サービスとなりました。昼食が月・火・木曜日で金曜日が夕食となっています。

平成二十年五月六日の金曜日から川尻小学校の四年生四名が学校修了後に参加一名に分かれ三年間、六年生終了まで、休まず頑張りました。高齢者の皆さんに大変喜ばれました。今は大学生です。

平成十四年から平成二十四年までは月曜日が二十五食・火曜日が六十食・木曜日が四十五食・金曜日が三十食の配食サービスでした。

会員も月が十三名・火が二十一名・木が十八名・金が十二名で、それぞれ曜日により重複していました。全曜日の参加は私を含めて三名でした。

平成二十二年より現在も毎年十二月二十九日におせち料理をたんぼほクラブの人達と作製して独居高齢者に二十食をプレゼントしています。



ボランティア協会の理事になって活躍しませんか!

「ボランティア協会役員改選について」役員選出の時期がやってきました。

あなたの企画力をボランティア協会の事業に、是非活かして下さい。

理事の立候補受付は十一月二十八日(月)より始まります。

立候補の手続きについては、事務局にてご案内をしています。分からない場合には、ご相談ください。

立候補者としての資格

ボランティア協会会員であること。ただし、立候補の時点で入会、会員となった場合も有効。

推薦人は三人以上必要で、推薦人もボラ協の会員であること。

立候補届出の手続き

「立候補者届出書」は事務局にて用意しています。

立候補届出期間

十一月二十六日(月)～十二月十七日(月)(平日) 事務局開局中(十時～十五時)に提出または郵送で。

選挙の日程

投票用紙の送付

選出対象の立候補者の情報を添えて、一月のほらんていあ通信に同封。

選出すべき役員の数

七人

投票期間

二月一日～二十八日

開票

三月

総会で報告・承認

五月



ボランティアさん募集！

書道のお手伝い

内 容 書道活動参加者さんの補助・半紙の取替え・墨汁の補充など

※指導ではありませんが、経験のある人歓迎します

日 時 月2回（月・木）の13：45から1時間程度

場 所 千代田デイサービスセンター（中央区千代田2-4-1）

持ち物 特にありません。施設で用意します。

連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所：電話 042(759)7982

相模原市社協 中央ボランティアセンター：電話 042(786)6181



みんな来てね!

12月8日(土)は ほかほかふれあいフェスタ 障害者週間キャンペーン

会場 サンデッキ相模大野（相模大野駅北口）
時間 12：00～15：00
催し 車椅子ダンス・ヒップホップダンス
バンド演奏・よさこいソーラン・大道芸

楽しいイベントがいっぱいです!!



《今日のトピック》
「遊ぼうよ」...

編集後記
小さい頃母から、自分がしてほしくないことを他人にもしてあげなさい、と言われた。
今は加えて、押し付けはならぬ、独りよがり
いならぬこともつけ加えて。 (山)

ご寄付をありがとうございました。

今後とも活動をご支援くださるご寄付をよろしくお願いいたします。

今月より「ぼらんていあ通信」に前の月にご寄付いただいた方のお名前を紹介させていただきます。※お名前は5000円以上のご寄付で掲載を承諾いただいた方のみになります。

<10月の寄付者ご芳名・50音順>

古矢野 栄 様 中央ボランティアグループ 様

その他5名の皆様からご寄付をいただきました。

<10月の寄付金>

総額29,210円でした。

皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切にさせていただきます。

会長 高橋 功